

(第7号様式の2)

事業報告書

(※必要に応じて枠を広げてご記入ください。)

1 事業名	琉球王国時代首里で歌われた祈りの歌と服飾文化を学ぶワークショップ
2 事業期間	2025 年 8 月 ～ 2025 年 9 月
3 事業内容	<p>具体的な内容（いつどこで何を実施したか等）</p> <p>2025/8/10 14時～16時 @ともかぜ振興会館 首里の音楽と歴史～うりじんクエーナを知る～ ご協力：首里クエーナ保存会の皆様</p> <p>2025/8/16 10時～12時 @おきなわ工芸の杜 沖縄の伝統衣装ドゥジン作り体験 講師：砂川恵子先生・知念美枝子先生</p> <p>2025/8/17 14時～16時 @ともかぜ振興会館 琉球の歴史・文化について 講師：鈴木耕太先生</p> <p>2025/8/24 14時～15時 @ともかぜ振興会館 琉球の歴史・うりじんクエーナについて 講師：鈴木耕太先生 カラフルコーラスOKINAWA講師： 新垣祐歌 知念利津子 北野希 照屋恵悟 山城麻紀子 根神夢野 安里友希 宮城裕里菜</p> <p>2025/9/14 13時～15時30分@那覇文化芸術劇場なは一と小劇場 カラフルコーラス OKINAWA 主催、那覇市共催「カラフルフェスタ 2025」にて、製作したドゥジンを舞台衣装として着用し「しまくと うば」と「方言手話」で「うりじんクエーナ」を歌った。</p>

	達成目標（事業計画書と連携させる）	目標数値	実績値	達成度（%）
4 達成目標と達成度	・琉球の歴史で初めて知った事、感じたことを表現できる	・ 60 名	・ 54 名	・ 90%
	・ワークショップでこれまで会う機会がなかった人と交流や学び合いができたと感じる。	・ 60 名	・ 45 名	・ 75%
	・コンサートの観客が成果発表に対し「良い」以上の評価をする。	・ 100 名	・ 71 名	・ 71%
	<p>結果に至る理由、気づき、検証等</p> <p>・ワークショップ参加者の目標人数は 60 名であった。実際に参加した 61 名の内 54 名の子ども達が、琉球の歴史で初めて知ったこと、感じたことを表現した。沖縄の歴史、生活様式、ドゥジンを含む琉装、そしてそれらが音楽に影響を与えていることについて「初めて知った」と回答する参加者が多かった。</p> <p>・カラフルコーラス OKINAWA のワークショップでは、サインチームと声チームに分かれ参加者同士がコミュニケーションをとる時間や、皆の前で意見をする時間を設けた中で、61 名の参加者の内 45 名が、これまで会う機会がなかった人と交流ができた、一緒に学び合えたと回答した。</p> <p>「障がいに関わらず、声や手話で自分を表現しているのがすごかった」との感想があり、特性によって分断された社会の影響で、これまで関わるのが難しいと思われていた人々が、音楽を通して一つの表現ができることを伝えることができたのではないかと感じた。達成率が 100%にならなかった要因として、ワークショップ参加者の年齢層が幅広く、小学校低学年や未就学児からの回答が得られなかったためだと考えられる。</p> <p>・コンサートを 10 段階で評価してもらったところ、95 名の回答者の内 71 名が「良い」以上の評価をした。</p> <p>障がい者の来場を見込みアンケートを作成したが未回答者も多く、次回は更に多様な障がいに関わり添えるような形でアンケートを作成する。</p>			

5 事業の成果	<p>事業を実施したことで得られた結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者に及ぼした影響 <p>障がい児を含めた子ども達が琉球王国の文化芸術の歴史を学び、古都首里の伝統文化であるキューナやドゥジン作りなどを体験する事で、歴史への興味を高め、継承・発展させていく意識を養った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携機関、協力者に及ぼした影響 <p>伝統文化の専門家と子どもたちが直接対話する事により、伝統芸能を伝えていく価値と共に、専門家が何故このような取組を長年行っているかなど、歴史を紡いでいく専門家や協力機関の貴重性を子どもたちに伝える事ができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域、コミュニティに及ぼした影響 <p>全ての人に参加できる芸術環境を創出する事ができた。 障がいや貧困など多様な背景を持つ子ども達が、共に音楽と工芸品を創作する過程において、互いの持つ表現や感覚の違いを認め合う事で、多様性の理解や共生社会の意識改革と基盤が生まれた。</p> <p>子どもたちが各ワークショップで学んだことを絵画や文章でまとめカラフルフェスタ2025会場入り口のロビーに展示し、来場者へワークショップの取組内容を伝えた。</p>
6 次年度以降の展開	<p>（ビジョンを見据えたうえで次年度以降に予定している展開）</p> <p>障がいの分断なく、幅広い層の県民と沖縄の芸術を共有するため、今回のワークショップにて作成したドゥジンを着用し、学んだキューナや子ども達が作成した手歌を用いて、沖縄県内各地のイベントやワークショップにて演奏活動を行っていく。</p>

7
実施した事業全体への自己評価とその理由

①自己評価(5段階評価)

当てはまるところに○をつけてください。

	とても良かった 5	良かった 4	まあまあ良かった 3	少し良かった 2	全く良くなかった 1
1 課題設定は良かったか	<input checked="" type="radio"/>				
2 解決策として良い手法だったか	<input checked="" type="radio"/>				
3 自団体の実施体制は良かったか		<input checked="" type="radio"/>			
4 他団体との協働体制は良かったか	<input checked="" type="radio"/>				
5 対象者への周知は良かったか		<input checked="" type="radio"/>			

②上記の結果となった理由について

- 音楽以外の沖縄の文化を体験することで、先人たちから受け継いだ自然や文化を継承している意識を持ち、沖縄らしさや表現を考える機会となった。
- 全てのプログラムを無償で提供。また手話通訳を配置して開催し、貧困や障害に関わらず全ての子どもたちが同じ環境で共に学べるインクルーシブな場を作ることができた。
- 多様な子どもたちが安心して参加できるよう、見守りや活動補助として多くのスタッフを配置したが、予算の都合上、賃金としての支払いができなかった。今後、運営体制を整えていきたい。
- 琉球王国時代に那覇市首里地域で歌われた古謡を継承している首里キューナ保存会、琉球文化歴史の専門家である鈴木准教授、琉装の普及を目指して活動されている専門家、手話通訳士、音楽家等の各専門家との協働により、幅広い側面からのアプローチで那覇の子どもたちへ琉球王国の文化の魅力を届ける事ができた。
- SNS やチラシなどで広報を図ったが、障がい者を含め対象に情報をリーチさせるのが難しかった。今後、さらなる工夫が必要であると感じた。

<p>8 市への要望・ 欲しい支援等</p>	<p>なは市民活動支援事業に係る下記の項目に対して (①事業説明会 ②個別相談 ③募集期間 ④広報支援 ⑤オープンデータ等)</p> <p>広報支援について。 なは市民活動支援センターの SNS の広報等で、多くの方に情報を届けることができた。しかし、SNS を利用しない対象者にも情報が届くよう、「広報なは市民の友」などの紙媒体や、市から教育委員会を通じた学校への周知も併せて実施されると、より幅広い市民への情報提供が可能になると考える。 一団体としての申請となると助成金の認可が下りてから短い時間で準備の中で教育委員会や市などの公認を得るためには 1 か月余分にかかってしまうため、積極的なサポートを要望したい。</p>
--------------------------------	--